

■ ■ ■ 井上 幸夫(らんとーく 登壇者) ■ ■ ■

◆らんとーく (2016年6月11日(土)10:00-12:00)

1953年生まれ。

1981年、東京都に福祉の専門職として入る。児童自立支援施設19年、障がい者施設5年、児童相談所9年。

2014年3月定年退職。33年間の中で、施設でWITHの精神を学び、また子どもを援助するうえで、決してあきらめない気持ち(粘—ギブアップ)やチームワーク、そして笑顔の大切さを実感。

2007年に、神奈川・東京の子どもの虐待防止を呼び掛けるオレンジリボンたすきリレーに出会い、中学から始めた陸上競技(マラソン)が虐待防止に役立つことに気付く。それ以来、全国各地でたすきリレーが開催されることを夢見て、2010年から2015年までに、岐阜、滋賀、小山市、高知、下関市、名古屋市、長野、茨城、徳島、静岡のたすきリレーに参加。各地域のたすきを肩に掛けて走り、たすきの交流が広がっている。

2014年10月26日横浜・山下公園から、「オレンジリボンたすきリレー目指せ!日本一周」というテーマで、子どもの明るい未来を願う虐待防止のシンボルであるオレンジリボンのたすきを掛けて、北は北海道から南は沖縄県まで、47都道府県を一筆書きに1年掛けて単独走破する。道中、大勢のランナーとウィズラン(一緒に走ること)する。

2015年10月25日横浜・山下公園に無事ゴールする。「日本一周 一年一万キロ 一期一会の旅」となる。また、出会いがエネルギー源となり、啓発ランが「感謝のラン」になる。

日本一周してみて、子どもの虐待は「親が悪い」では解決できない課題があり、親子を取り巻く関係機関が手をつなぎ、市民と一つになることが重要と確信する。また、啓発活動と市民マラソン大会がコラボすることで、活動のすそ野が広がり、社会貢献につながり、ランナーの競技生活をより豊かなものにすると気付く。



